岐阜県立多治見高等学校

学 校 長　土本　泰
学校住所　多治見市坂上町9-141　　電話　0572-22-4155

１　会議の名称　岐阜県立多治見高等学校評議員会　（第２回）

２　会議の構成

委　員	恩田　豊寛	多治見青年会議所理事長
	加藤　芳美	本校育友会役員
	田牧　朋子	本校卒業生
	長崎　恵美	(株)華柳社員
	匹田　浩司	ＪＲ東海多治見駅主席助役

（委員名は五十音順）

学 校 側	土本　泰	校長
	水口　猛	教頭
	酒井　光司	事務長
	伊藤　昭嘉	教諭（教務主任）
	加藤　元規	教諭（生徒指導部長）
	岡崎　正路	教諭（進路指導部長）
	田内　功	教諭（保健厚生部長）
	堀　裕邦	教諭（特別活動部長）
	西田　智子	教諭（教務部）

３　会議の目的　学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校作りを推進する。

４　会議の開催　平成３０年　２月１４日（水）　13:30～16:00　　多治見高等学校校長室
委員５人と学校側７人が出席

５　会議の概要

学校からの説明

○（校長）
来年度は市内の中学生が 80 名ほど減少するため、本校は自然科学コースを閉じ１クラス減の５クラス２００名の単位制普通科高校となることが発表されている。今日見ていただいた課題研究のような自然科学コースの蓄積をこれからも受け継いでいきたい。学科改編や高校としてのあり方の模索など、学校だけでなく地域等からもご意見をいただいて多治見高校の改革につなげたい。

○（教務主任）
今回の会議は「生徒および保護者等を対象とするアンケート」の結果および自校評価を元に進めるが、５分野を一度に行うのは大変なので、前半と後半に分けて説明とご意見を頂戴する形で進めた後、ＡＬについて説明を行い、最後に全体の意見を伺うような形で進めていきたい。

○（学校）
２９年１２月実施のアンケートの結果については、大きく数値が動いたところだけでなく少ない数値の上下にも本校の課題が隠れているのではないかと思う。本校の掲げる教育目標については生徒の評価が６３％とさほど高くないので、教員側からこの目標についてきちんと伝えられていない部分があると思う。また「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」に対する評価も５９％となっており、学校生活のあらゆる場面で自己肯定感を高めるようにしていく必要がある。家庭との連携については「すぐメール」の登録を呼びかけ、一斉メール配信による連携がとれ、保護者からも高評価をいただいた。教職員については、学校訪問時や電話連絡時の対応

については昨年に引き続き高い評価をいただいたが、「悩み事や相談事に親切に対応してくれる先生が多い」は５１％と評価が低い。教職員が生徒にとって身近な存在であるようにしていきたい。学習指導については、朝読は相変わらず高評価である。ＡＬについてはまだ生徒の評価が低く、入試や将来につながることであるという動機付けをきちんと行って行きたい。

教務部の自己評価としては、生徒へのアンケートの中で教職員についての評価が３項目で昨年度比－８～－１２％となっており、授業力を含めた教員力の向上が必要であると思われる。習熟度別授業や少人数授業についても同様の傾向があり、理解の深まりにつながっていない。総合的な学習の時間についても同様の減少傾向が見られ、意義についての理解不足や内容の質の低下が懸念される。今年度は上記の習熟度別授業や少人数授業、ＡＬの充実を中心に目標を立て、公開授業や研究授業、職員研修などもたくさん行い、年に２回授業アンケートを実施し自らの授業を振り返ることも行ってきた。少人数・習熟度別授業については十分効果が現れていないと判断できるので、検証が必要である。家庭学習を３時間はやらせるように生徒にきちんとやるべきことを示すことが大切である。

○（学校）

アンケート結果のうち、総合的な学習の時間についてはー１２％と減少したが、１年生で行っている総合的な学習の時間の取り組みが、生徒の中で総合的な学習の時間として意識されていないので、生徒への呼びかけをしたい。この時間の取り組みについてコーディネーターの必要性を感じる。「進路情報の提供」「適切な進路指導」についても評価が下がっているが、学年別に見ると、全体に２年生に低評価が多い。進路についてまじめに考える中で不安なのかも知れない。サタスタ・夏期補習については３年生には好評であったが１．２年生は夏期補習を行っていないせいもあるせいか、評価が低い。

進路指導部の自己評価としては、保護者向けの進路説明会の回数を増やしたが、参加は全体の半数ほどである。１回の説明では情報が伝えきれない。模試については分析を各教科で行い、対策を各教科で考えてもらっている。メール配信によって保護者向けの連絡が通りやすくなった。土曜の自習教室の開放は尻すぼみになってしまった。成果については、外部講師の方に教員とは違う見方で話してもらえて意識の向上がはかれた。業者利用において、資料請求が交換条件となっている場合が多く、学年の先生方に負担をかけた。来年度の課題としては、生徒が受験体制に入るのが遅いため、補習のあり方を工夫していきたい。大学入試が大きく変化をする時期なので、高校としても速やかに対応していくことが大切である。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見１）

通学路で生徒さんが、まだ高校に入って一年たたないのに大学を選ぶのは難しいという話をしていた。学部もわからないと思うので、ゆっくり進路を選べるよう配慮いただくとよいのではないか。

（回答）

入試の変動を早く伝えて、早めに考えさせていきたいが、バランスを大切にしたいと思う。

（意見２）

うちの二人の子を見ていると、上の子は自分だけではできないからと塾と学校を活用していたが、下の子は塾がいやだと言って学校でやっている。大学に行きたい気持ちはあっても自分のこととして研究ができていない。コツコツ早めにやってきた子は伸びている。どうしたら自分を客観視できるようになるのか。個々で違うとは思うが目標を持った方が方向性が決まり、意欲的になると思う。

（回答）

早く目標を決めた方がよい。ベースができている子は３年生になって方向を変えても大丈夫だが、目標が決まらないままベース作りに失敗すると苦しい状況になる。

学校からの説明

○（学校）
　アンケートでは昨年より向上した。全体的にしっかり生活していることが数字に表れている。教育相談は、組織的に外部機関やスクールカウンセラーとも連携しながらよくやっている。ＡＬの目指す主体的にできる生徒は、生徒指導でも目指すところである。育友会のアンケートで挨拶のできない元気のない生徒がふえたという指摘をいただいたので、来年度は課題としていきたい。生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の充実を図っていきたい。

○（学校）
　学校行事等の情報発信をうまく行い、取り組みを認知してもらえるようＨＰの内容を考えていきたい。学習と部活動の両立の項目がマイナス評価だったので、学習と部活動のどちらに偏りすぎているということなのか見極めたい。部活動については生徒数の減少や働き方改革の中で考えていく必要がある。ボランティア活動については生徒が－１０％で認知されていない部分がある。講演会等の生徒評価は低くない。これからも生徒にとって有意義なものになるようにしていきたい。資料の後ろに活動報告があるのでご覧いただきたい。

○（学校）
　防災美化委員会でもアンケートをとっているが、１２月には評価が低く、１月２月は高くなっている。大掃除の有無などでも評価が変わる。掃除ではトイレの評価が低いが、乾式トイレになり、用具も充実させてきたがなかなかプラスの評価にならない。委員会活動を通して美化を訴えていきたい。今年度も救急救命講習を１年生と全職員に行った。命を守る訓練の際には中学校区ごとに分けたグループを作り、リーダーも確認した。安全点検では毎回ロッカーの改善要求が出るが、お金のかかるものはすぐには対応できないのが現状である。

○ＡＬについて（学校）
　生徒向けアンケートでは１年生は肯定的だがここでも２年生は否定的である。ＡＬの取り組みは大学入学後も大切になっていくことである。ベネッセ主催の高校総合学力調査では表現力が劣っていたのでＡＬの中にも取り入れてうまくすすめていきたい。

学校評議員からのご意見・ご感想

（意見３）
　２年生の評価が低いということだったが、生徒が不安があるのは当然だと思う。保護者の評価が高ければうまくいっているのかもしれない。進路指導は長いスパンで行われるので、短期の評価ではなく、進路決定後にアンケートをとらないと本当の評価にはならないと思う。挨拶については就職を意識した学校に行くと活動中でも足を止めて大きな声で挨拶をしてくれる。

（意見４）
　欠席や遅刻をしないということは本当に大切で、突然休むようだと社会に出てからも困ったことになる。行くのが当たり前だということを学校生活の中で身につけてほしい。休まない健康管理ができるようになることも大切。アンケート評価についてはまだ目的に対する意識が高まっていないのでわからなくて評価ができないのではないか。部活動の生徒に来てもらったが積極的に活動してくれてよかった。ゼミ学習も大切だと思う。ＡＬについては今は評価が低いかもしれないが、本当の意味でこの活動を評価できるのは先になる（大学入学後、社会人になってから）と思う。即効性はないように思う。

（意見５）
　小学生と中学生の子どもがいるが、高校生が学校に来てくれたというのを学校からの手紙などで知っている。公民館祭りの時、吹奏楽部の活動を見たが、よく工夫して小学生たちも楽しそうだった。先生たちが考えているよりも地域は多治見高校に親しみを持っている。高校生が幼児や小学生と交流するのはよい経験になると思う。これからも交流が続いていくとよい。

（学校）
　１月にセンター試験があったが、地域では何か迷惑ということはなかったか。
（意見６）
　車が混んでいるときは、今日は学校で何かあったのかなとは思う。
（学校）
　実は車の送迎に関して、マナーが悪い、乗降が邪魔になると苦情の電話がかかってくる。校門前の送迎を遠慮してもらい、少し離れたところで降ろしてもらっているが、地域の方はどのように感じてみえるのかを知りたい。
（意見7）
　学校というより親のマナーの問題だという気がする。そのマナーを子どもが見ているので、親の指導という話になるのかもしれないが、それは高校でやることではないように思う。
　生徒は素直な子が多くて、先日ＮＨＫのインタビューがおこなわれた時も快く対応してくれた。遅刻のことだが、高校３年間皆勤だったがトイレでお弁当を食べていたお子さんの話を聞いたことがある。その学校の先生はそのことを知っていたが、親には言ってくれなかった。大学進学後家から出られなくなった。親としてはご飯をちゃんと食べて笑顔でいてくれれば、その方が大切だと思う。

（意見８）
　挨拶や遅刻、ＡＬなど企業でも同じ活動をしている。今の取り組みは社会に出てから生きてくると思う。歩きスマホの話を以前させてもらったが、かなり少なくなっている。こちらから高校生に挨拶をすると、返事のない子はイヤホンをしている。挨拶の声が聞こえない音量だと危ない。多高生はマナーの問題はない。

６　会議のまとめ

（校長）
　１年間皆勤の生徒は大変多い。家庭での生活がしっかりしていれば無遅刻無欠席は達成できる。今日はしばらく学校に登校できていなかった生徒が登校できていた。これからも一人一人の生徒を大切にして関わっていきたい。本日は評議員の方から学校に対する貴重なご意見をいただいた。今日出された意見を参考にこれから年度末にかけて十分に各分掌で話し合い、反省し、来年度多治見高校がさらに地域に愛される学校になるように努力していきたい。本日は本当にありがとうございました。